

《どうでもいい話、その 538》

どうでもよくない皆様へ

こんにちは！

久しぶりに本家岩波書店「用語・ことわざ新解釈事典 下巻」をお送りします。

(ちょっとムリムリのもあり)「最近下ネタの話が少ないのでたまには！」とのご要望がありますので、少し入れます。

「安倍降って辞意固まる」(アベフツテジイカタマル)・・・安倍さんが大腸炎の悪化により断腸の思いで首相降板の辞意を固めること、困難の後よい結果が現れるという意味

「コロナぬ先の知恵」(コロナヌサキノチエ)・・・新型コロナウイルスに感染しないよう知恵を絞ることから、前もって念には念を入れることが大切だということ

「暑さ寒さも悲願まで」(アツササムサモヒガンマデ)・・・猛烈な暑さに耐えられず、早く収まるよう願うことだが、彼岸のころになれば自然と収まる気温の変化のことわざ

「五輪霧中」(ゴリンムチュウ)・・・来年に延期された東京オリンピックだが、来年もどうなるか分からないという、状況判断や決断が難しい意味で使う四字熟語

「聡太威勢理論」(ソウタイセイリロン)・・・将棋の若手 藤井聡太が、抜群の勢いで独特の将棋理論のもと二冠王になったことから、相対するものに関する理論

「渡りに船」(ワタリニフネ)・・・病気がちな渡哲也が天国へ船出したことから、状況のタイミングのことをいう

「口はチュー手はチュウー」(クチハチューテハチュウー)・・・口や手などどこにでもキスする何ごとも達者な人のたとえだが、人柄があまり信用できない相手に用いることが多い

「柔よく剛をセックス」(ジュウヨクゴウヲセックス)・・・柔らかくても硬いものより勝るセクシュアルテクニシャンのことで、柔軟さに秘められた力を評価するとき用いる